

# 万葉集

日本に現存する  
最古の和歌集「万葉集」を  
わかりやすくご紹介します

[vol.102]

## 鹿の鳴く山

秋といえば鹿が鳴く季節です。

万葉集にも、秋の鹿を詠む歌が多くあります。ただ、この歌は「秋さ  
らば」と仮定しており、秋ではない  
時期に秋の様子を詠むものです。  
「今も見るごと」は、鹿の屏風絵を  
見ているという説、見えるかのよう



秋さらば今も見るごと妻恋ひに  
鹿鳴かむ山そ高野原の上

長皇子 卷一(八四番歌)

訳

秋になると、ほらご覧のようにきまつて妻恋いの鹿の声が  
ひびく山なのですよ。この高野原の上は。

に想像しているという説があり  
ます。

題詞には「長皇子の志貴皇子と  
佐紀宮に俱に宴せる歌」とあり、天  
武天皇の子・長皇子が、天智天皇の  
子・志貴皇子と共に平城京北側の  
佐紀宮で宴会をした際の歌です。  
他にも二人が同時に詠んだ作(巻  
一・六四、六五番歌)があり、親しい  
従兄弟同士だったようです。歌の  
中にある「高野原」は佐紀丘陵を  
指したものと思われます。

さて、この歌は巻一最後の歌で、  
題詞の前に「寧樂宮」という標目が  
書かれています。それまでの「宮  
御宇天皇代(みやにあめのしたらし  
めししめらみことのみよ)」という形  
式と異なることから、追加された  
部分ではないかと指摘されていま  
す。平城京遷都の七一〇年以降、二  
人が他界した七一五年以前の作だ  
と考えられます。

さらに、この歌には「右の一首は  
長皇子」という左注があります。こ  
の一首が長皇子の作であることは  
題詞に明らかであり、不必要な左  
注であるように思われます。実は、  
いくつかの古い写本の目録には、こ  
の歌の次に「志貴皇子御歌」と書か  
れています。本来は志貴皇子の歌  
が続いていたと見てよいでしょう。

志貴皇子の歌はどこに消えてし  
まったのでしょうか。伊藤博氏は、  
長皇子の歌に続いて、志貴皇子の  
歌、「石ばしる垂水の上のさ蔵の  
萌え出づる春になりけるかも」が  
収められていたと推測しています。  
それが春の代表歌として季節分類  
である巻八の巻頭(二四一八番歌)  
に載せられ、重なりに気づいた後の  
人が巻一の最後を削除した、とい  
う説です。秋と春を対で詠む、風  
流な宴だったのかもしれない。

(本文 万葉文化館 阪口由佳)



写真提供：梅原章一さん

関 県橿原考古学研究所 ☎0744-24-1101

## 佐紀盾列古墳群 (奈良市)

奈良盆地北部に展開する古墳群  
で、全長200メートルを超える巨  
大前方後円墳が複数あります。周  
囲には自転車道が整備されており、  
奈良の歴史を感じながらサイクリン  
グを楽しむことができます。

## 万葉ちゃんの つぶやき

和歌や作者などに関連  
するものを紹介するよ！



万葉ちゃん